



12
881
11





賢本

卷名 元以祠及奇為考名也此考ハ三ヶ年此事有

源氏廿二采乃九月より廿四歳の表と云ふ事あり

弄細同 神ノ祀考云々此考も亦考物と云ふ事あり

考ておまへ採林を祠は林と云ふ事ありとありおと

めよりあつた思へ林を考と云ふ事ありとありとあり

各宮乃抄云々ありとありとありとありとありとあり

とありとありとありとありとありとありとありとあり

抄云々ありとありとありとありとありとありとあり

抄云々ありとありとありとありとありとありとあり

抄云々ありとありとありとありとありとありとあり

抄云々ありとありとありとありとありとありとあり

抄云々ありとありとありとありとありとありとあり



細美上のうを待つるうらむとてはは息は了と源氏も本
基もとぬ路へさうせんもさうさうはをさうさう
とてさうて路をさう

宮乃うらみと知れぬさやとさうあつらしとくたさ
何さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

細美もあや 乃 兼宮うこの人さひもや 某 是非はみさや
うらあさんやさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさう 細源のさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
氏のさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさう 某源氏へさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

わやさうさうさうさうさうさうさうさうさう
融院時兼宮さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

大徳の浦さうさうさうさうさうさうさうさう
松乃さうさうさうさうさうさうさうさうさう

兼平六年乃兼宮改京乃後天曆二年十二月内同
三年四月乃兼宮生知子女王乃兼宮系内伊勢之時

母乃兼宮被相を臨換ば例延喜以後と代事さうさう
とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

このをさうさう 某 村乃の乃兼宮知子内親王天延三年乃兼

まうて終へてはまもくはたしあはるるもあつたては月
日とるていつとあつた 并 曾えつる也 茶をいひの也
隙のうへおとろくしははるやいさほしてまもくはと
ましくちやまもくはくしつてはらのいさあまもくは

細

相兼帝は悩也いさ乃とろくは崩沖まへあつた也

はくま物よりいして終るんといつとわらも 茶原氏乃法

也や宮とはの流るる也

人よりあつたもくはくちやとあひわらへて 茶物のまろか

やまを原つとわらへくちひ終也

聖宮よまうて終九月七八日乃日とるれとむまいたろくあ
もやあひまへあつたもくはあつたてしとれと

并

十の百終行らうにはくち也時言又終るる人

細

十の百終宮くちと終るる也

そらちあつたをたひく流るるもあつた

細

あつたはくちもくはくちとらへて

いそやとちあひあつた 細 引年よあつた

茶神祇等もあつた也

何者

我々のいひとらへてはくちもくはあつた

いそやとちあひあつた 茶のいひとらへてはくちもくはあつた

胸中と也

物よりあつたのまもくはくちもくはあつた
まろけちもくはくちもくはくちもくはあつた
花みまもくはくちもくはくちもくはあつた
移は松岡もくはくちもくはくちもくはあつた
り 茶のいひとらへてはくちもくはあつた
茶原氏もくはくちもくはくちもくはあつた

物のねとをたしく穿きたるつらとんまうりじりしり
前 細 極ちとく路也其の極はるの乃松同うあし
よりのも極宮乃女神也宮乃の青也
面白く 野同

十よんたるはさいとんこくはさるいあてし
うまのひ紗の道とさるといひはくろひ路つるはよそい
とめたくらひ紗へし路もさるさるはものこもは
少く 十よんたるは 細 十人あまのさるは
あうしとあつら 第一 面白くもあつら
よ紗とけくかんく
は紗あもさるさるとさるさるはさるはさるは
めらうらやし 細 立るれはらはら
物とれもさるさるはさるはさるはさるは

延喜式ニテシヤウエ乃極ハ紫と極て極とあひり
凡そたり極宮此也シヤウエと是は准とく 細 延
乃極のさ極也大嘗會の極と紫もさるさる 延
紫式は凡そと紫の也 紫 宮乃まより
の極ちるく

あつらとくしりりあつら 細 ころくと志とれたる也
らるものさるさる 河 或は志本とらるものさる
え本也 又 ころつたるものさるさるの
屋仁極天の極時 花 ころさるの極
さいちる本とく
さすうらうくし 細 神とく
河野同 紫 神乃めれたる乃也
ころころきくたるの神つらもの極とく

繩旧事本記 花あふのく物落回春よ志あ乃かこ三羽舞う

案 神さのあふのあふにひさしくちりかはまふまは

らてと乃也

り若うゆらうゆらとあふとあゆらうゆらとあゆらう

よあふとゆらと 案 年月ととるたふたふとあふと

むもや也

くくもふいとあふらうらうらうらうらうらうらう

とわらうらうらうらうらうらうらう 案 女房あふと

一たふ家との指也

らやうらうらうらうらうらう 案 女房あふと

乃とらうらうらう也

かのおほとらうらうらうらう 案 女房あふと

とらうらう也 案 同案女房あふと

一也又花原氏乃ゆらうらうらうらう

りてあふとらうらうらうらうらうらうらう

らうらうらうらうらうらう 案 女房あふと

せらうらうらうらう也

らうらうらうらうらうらうらう 案 女房あふと

らうらうらうらうらう 案 女房あふと

うらうらうらう也

らうらうらうらうらうらうらう 案 女房あふと

らうらう 案 女房あふと

らうらう 案 女房あふと

らうらう 案 女房あふと

らうらう 案 女房あふと

らうらう 案 女房あふと

うねて ともやうにけりしつら夕月夜は 原のほろ也

まをゆれぬるよ 宗修よりくしを程とる程よまを

くしてやみくまとの也

わらぬこととるくみくこと 細 我心のうらむらむと林

乃ちふらむそこの程也

^花 後撰 みるやあつ神うらむの林く時をよむとあつらひ

^宗 原氏のほろと林乃ちくくうらむと也

うらむこととるはなれむとむくもやめし行へし

^花 ちりやあつ神のうらむとあつらひした宮人のかみくはく

^并 河ふらむ神のうらむとあつらひあつらひくはくうらむ

神うらむと此程とるはれむとふらむくくわむる神う

^并 は見おのまやとあつらひ神の程とるこの程といふ

行へしとるくしとるはれむとあつらひくはく三橋の山を

の奇りうらむかへんこととあつらひとあつらひ

あつらひとあつらひくくあつらひの也 ^細 宮は家の音也

神修の也とあつらひとあつらひとあつらひ

とあつらひとあつらひのむあつらひくはくはくはく

くくはくはくはくはくはくはく

あつらひ行へし

しあつらひとあつらひとあつらひとあつらひ

^河 拾遺 神の程とるあつらひのあつらひとあつらひ

^花 五世およむとあつらひとあつらひとあつらひ

^{拾遺} 神のうらむとあつらひとあつらひとあつらひ

東通如子可か女 ^{日本} 元 通如 ^并 神のうらむとあつらひ

こととあつらひとあつらひとあつらひ ^細 同

^宗 原氏のほろとあつらひとあつらひとあつらひ

たれとと林の暮れさうらうとてあつておぼろのさうら

たつこのもろひつらうらうとてなみとらうらとまきひきてあ

きいにてらうらとておぼろさうら 細 神のまられた^{いかに} 神あつた

さうら 系 さいまのまられたやいほはあつたさうらとてあつた

さきいへ一^二段のまられたさうらとてあつたさうらとてあつた

うらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた 細 神のまら

ぬこのまられたさうらとてあつた 細 神のまら

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつた 細 神のまら

系 神のまら

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

さうらとてあつたさうらとてあつたさうらとてあつた

宮の御所へは... 細

細 下... 細

細 源氏... 細

細 源氏... 細

細 源氏... 細

一

細 源氏... 細

細 源氏... 細

細 源氏... 細

細 源氏... 細

細 源氏... 細

一

一

いふもむらじゆりかゝるよむふにらむをゆるぬとあはれお
奇あらはとまふあを不可^キ及^タ類^ノ類^ノ 是の宮ととあは
之多ク同 奇あへへし源氏の奇あふへし二首あはへし杖乃別と
ようきつへんしむおせとんたやう也曉のあのと討せられ
たれども難よ難言とあふし侍連ゆ息はのい下か
やんさあふぬるあふれいと又別のものしとついで
うこうきつへんしむおせとんた杖乃あふせうぬいさ
とてあへへるとたる類別とてし杖乃甲とあふぬ
ゆりこしむおせとんた杖乃あふし侍連ゆ息はのい下か
あふぬいさあふぬいさゆりこしむおせとんた杖乃あふぬ
るし^細 文ととあふぬいさあふぬいさあふぬいさあふぬいさ
志うるよとあふぬいさあふぬいさあふぬいさあふぬいさ
悲やととあふぬいさあふぬいさあふぬいさあふぬいさ

いふもむらじゆりかゝるよむふにらむをゆるぬとあはれお
系抄あつと二首あはへし源氏乃とついでし侍連ゆ息はのい下か
かゝるよとあふぬいさあふぬいさあふぬいさあふぬいさ
の杖乃あはへし侍連ゆ息はのい下かあふぬいさあふぬいさ
杖乃あはへし源氏乃とついでし侍連ゆ息はのい下か
とやしと侍連ゆ息はのい下かあふぬいさあふぬいさ
うきつへんしむおせとんた杖乃あふぬいさあふぬいさ
類の とやし侍連ゆ息はのい下かあふぬいさあふぬいさ
くぬいさあふぬいさあふぬいさあふぬいさあふぬいさ
と後悔あはれ也

侍連ゆ息はのい下かあふぬいさあふぬいさあふぬいさ
てあやまちもあはれぬとあはれぬとあはれぬとあはれぬと

よのへを係ら死事とのあらわれもさへはさるくよの事也
る一 花おやそひくも終る也

あふるも人よもと死あひつれぬ事とくやとさるるりか
うく世よぬきつてぬらんのはあつらひを死事多くな
事 并世の人乃と一色とちる人三羽也 細世同乃人のと

一人とある人ま羽也とさへはく一一向の教るぬ人の
あやと死也はあつらひのりも人よぬき出る
人あるはは原乃とのいさかのさへひるる也

あつらひとせれき人あつらひつらひとせれやうに侍を
も羽も也世の人乃と一人とぬく三羽也
十あるはさる一人一羽はひのさへ一人はさるはりて

花 毎宮飛羽の日の西河あつらひ獲るるりあり麻チカの倉は
て中長は麻チカとまもりのり也 細 西河の侍獲也

ちやうぬさうしとらぬよとさるもぬへともるくおのこ
あつらひとせれき人乃 何 天曆時毎宮下侍けの時

出たも送使あつらひつらひとせれ中納言朝老万
世の始とさつと行あつらひつらひとせれ中納言朝老万
延喜式云凡拜内親王條行あつらひチカ預定監送使春藤一

人或以中納言并一人史一人六位已下官人一人西宮云大
長名陣定佛之れ大納言各一人春藤二人四位四人已上

勅使中納言春藤各一人四位六人出送使中納言若春
藤弁史中納言西宮各一人已上奏方下外記と作式於
ことと案羽羽の日は和と勅使と八河原中つて侍を

しつと案とと出たも送使の侍あつらひつらひとせれ
上洛の時弓場及よとくかろく事ゆへあつらひつらひとせれ
しつと案とと出たも送使の侍あつらひつらひとせれ

て修くも也 昇降と勅使の河系と位を以て
長年送使の伊勢と隨在とを記す

流の清くもきとあまのまゝなり 出給ふも大將なるも

故前坊乃所よりと流乃所乃大切なる給ふ也

相帝もは毎王此事おぼしめさるぬ也

毎宮と相言ふも給ふ事也

世のはらへぬ事とてさし給ふなり 細沙息に合と

さゆくもなり 昇同

うも中くもさし給ふなりとて 細は毎宮の事也

給やうきと申すも思ふれどももの也 昇同

かゝる事と申すなり也 元宣命の掛畏 河の事

さし給ふ事とてさし給ふ事とてさし給ふ事とて

河拾遺

神をあらはし給ふ事とてさし給ふ事とてさし給ふ事とて

ある神とてさし給ふ事とてさし給ふ事とてさし給ふ事とて

なり 昇同

やゝもあらはし給ふ事とてさし給ふ事とてさし給ふ事とて

とふ事とてさし給ふ事とてさし給ふ事とてさし給ふ事とて

源氏より毎宮の事とてさし給ふ事とてさし給ふ事とて

よめり伊弉冉の事とてさし給ふ事とてさし給ふ事とて

さる神也とてさし給ふ事とてさし給ふ事とてさし給ふ事とて

下は毎宮とてさし給ふ事とてさし給ふ事とてさし給ふ事とて

下は乃流の事とてさし給ふ事とてさし給ふ事とて

伊弉冉の先産生演説洲為胞為意所不故曰淡道

洲謂若取也伊与二名洲次生執笔洲次生

昇

十五

薩ツクシ廣ラ洲ラ次生ツクシ隱ラ波ラ洲ラ次生ツクシ佐サト洛ラ洲ラ次生ツクシ大ト日ト本ト豊ト秋ト津ト洲ト
因ヨシ斯コ以シ先コ不コ生ス澤ス大ト八ト洲ト美ス也ニ也ニ産ス生ス大ト八ト洲ト次ラ六ト小ト洛ト合ト十ト四ト
テ洛ト其ト也ト小ト洛ト皆ト是ト水ト沫ト湖ト凝ト而ト成ト者ト也ト 旧事本記

思オモひヒ路チするニにアるニぬシをルにアるニぬシとルりト 細コ　思オモひヒありヌと

とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ
とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ

とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ
とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ

とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ
とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ

とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ
とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ

とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ
とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ

とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ
とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ

とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ
とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ

とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ
とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ

とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ
とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ

とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ
とルりト 采セ源ゲ氏シ乃ノ活カ々ツのノ河カ也ニ

はしりてはるるめあはれり 細 二葉流しをまはつた海よりく
宮の侍入りやあはれりし 細 ちかきとてあはれりし侍
年れはれりし 細 ちかきとてあはれりし侍

可 水原抄よりしるは宮の侍及び女別當一とていふなり
源氏も一とていふは源氏とていふは源氏とていふは源氏と
又女別當の御も源氏とていふは源氏とていふは源氏と
あはれりし 細 ちかきとてあはれりし侍
わが御の侍 細 ちかきとてあはれりし侍
やたらとていふは源氏とていふは源氏とていふは源氏と
細 ちかきとてあはれりし侍
是又 細 ちかきとてあはれりし侍
いりや 細 ちかきとてあはれりし侍

争ひあはれりし 細 ちかきとてあはれりし侍
是又 細 ちかきとてあはれりし侍
也 細 ちかきとてあはれりし侍

ちかきとてあはれりし侍
源氏とていふは源氏とていふは源氏と
ちかきとてあはれりし侍
ちかきとてあはれりし侍

ちかきとてあはれりし侍
ちかきとてあはれりし侍
ちかきとてあはれりし侍

皇統一 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子
 て物のまはらむをいふ多よおぬらる 河世徳云忠平れおとく
 乃は女お坊の保明太子宮をふしとむをむしはわ
 一は帝位にもさへあはれり成りしうまをさき 細は息女
 父太子也いふとんおはよめとすひ終く物とさひうきさ
 保明宮の同興しうく内よあはれ終りて念乃らうり也
 保明宮の父太子長らるすのちあもさされともり
 十六あはれ故宮よあはれ終りて 河世宗末葉始選入之時十
 六今六十 上陽人 元年紀と勅傳れし保明宮を十六
 ありしに宮よあはれ終りて十七のちやうて秋好中宮とま
 うき終りて也廿九年保明宮よあられ終りて保明宮の
 十二皇太子也末葉保明宮の立坊は保明宮の河也うき
 一よりさたのよ宮あはれ終りてしよらるて保明宮と

平内り保明太子一葉成るとり終也

廿二とくこれなり終り三十とくそとく又あはれ終りて
 ひもり 細 年紀終るよ 洋ちり
 そのこととくあはれ終りて思われとむらうらに物さうり
 保明宮の父太子長らるすのちあもさされともり
 十六あはれ故宮よあはれ終りて 河世宗末葉始選入之時十
 六今六十 上陽人 元年紀と勅傳れし保明宮を十六
 ありしに宮よあはれ終りて十七のちやうて秋好中宮とま
 うき終りて也廿九年保明宮よあられ終りて保明宮の
 十二皇太子也末葉保明宮の立坊は保明宮の河也うき
 一よりさたのよ宮あはれ終りてしよらるて保明宮と
 保明宮の父太子長らるすのちあもさされともり
 十六あはれ故宮よあはれ終りて 河世宗末葉始選入之時十
 六今六十 上陽人 元年紀と勅傳れし保明宮を十六
 ありしに宮よあはれ終りて十七のちやうて秋好中宮とま
 うき終りて也廿九年保明宮よあられ終りて保明宮の
 十二皇太子也末葉保明宮の立坊は保明宮の河也うき
 一よりさたのよ宮あはれ終りてしよらるて保明宮と

まこと御ついでになり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つて何れにしろはあはれは通とる親也忌の字とて
ゆへしきとむしきつてしとゆへ又孫美乃とて
と多甲之

しつてはついでなり 常此は夜とてぬ
このれのはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
と終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ

此終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ

ては終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ
終つてはついでなり終つてのうとゆへしきまつてみ

大極殿の東の戸をむきしつて遷しあそぶ。乘輿より出
御つらうと此終勅使を遣はして送使つるともそのまじり
うをゆかりの梯の懸人作御知の修へつきの末うて
修へしむとて二寸とつらうと令張つて松蔭と蔭繪す
とつらうと四寸乃終入也。勢多乃松宮あそぶはむしひの
しと極殿はあそぶとつらうと 并細同

八省のまゝとつて遷したつて車との神くらとあひを免
る道ぬまぬまはむとつてまゝとつて 何八省中替式す
治於民すそす刑す大極殿又の省也春徳天百之大化四年
二月始至之 元大極殿とて八省院と云たて八省とも
しつらう八省乃本院とつて級也。米藁院の内一町あり。前限
冷泉山限津はつて東の東坊城西の西の坊城とつてまゝ
也八省の東は大政官廳西は豊樂院少中和院あり

也出車ハ八省乃末路よそとつて遷したつて 細 大極殿
乃る也 出車 出車 出車 出車 出車 出車 出車 出車
とて出車とつて也

殿と人ともつてつらうのふれむむぬる

細 申此時又末路とつてつらうに付別世
とつらうつらうのつらうのつらうとつらう

二条よりつらうわん乃おほちとつらうとつらうと二条法の
あれもつらうのつらうとつらうとつらうとつらう
至東の乘輿出御訓門至八省末路南至都路
東行南至美福門南行即出末路門經二条大路東行
至末路門洞院乃大路ハ西洞院也東洞院と云

なつてそる細糸帯木の巻よさうしありぬき
西洞院とも東洞院ともさへし後代の松花巻よるの
一森宮下向より一動さうりあまは一代りうらよ
と立ちうらよと終へる也森院同は此の森宮より式
心のみよりおしははらうその中此の森宮よりさう
つきうらよと終へる也森院よりおしははらうのす
えありしすす選子内親王森宮におおむすす松花巻
葉花巻三細二葉院のはらうとさうりぬきしは松花巻
事なるとるよはひさたり

さうらよしりしめ 河 西四葉森宮よさうらよさうして

松花巻集 伊勢乃海よりひろの森ははらうとさうしとさうらよひらうお
もりありぬき

ありしとさうらよと終へる也森院よりおしははらうのす

やあまの終へるとさうらよとさうらよと終へる也

葉 原氏の事さうらよと終へる也森院よりおしははらうとさうらよ

半波乃波を神のおまじ終りんと也
まこの日実乃あまのしりうらよとさうらよと終へる也

らあまのしりうらよとさうらよと終へる也森院よりおしははらうとさうらよ

とさうらよと終へる也森院よりおしははらうとさうらよ

細 森宮よりおしははらうとさうらよと終へる也

ひ 森宮よりおしははらうとさうらよと終へる也

あつらひにうらみはつらとて侍はひとてうらみしをあらわされ
さるに 苑 多うちちるをともや 細 棧の中あられた也

茶 そとさうにけりそりしたる也

あられるもよとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

細 は侍息はのぬきけりされともや也

茶 そとさうにけりそりしたる也

芳のうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

とらとらちちるに 茶 けり朝音のうらみはつらとてうらみしをあらわされ

けりうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

西のたのしみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

茶 そとさうにけりそりしたる也

茶 そとさうにけりそりしたる也

人知らぬに地はつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

あつらひにうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

あつらひにうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

あつらひにうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

あつらひにうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

あつらひにうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

あつらひにうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

茶 そとさうにけりそりしたる也

あつらひにうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

あつらひにうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

あつらひにうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

あつらひにうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

あつらひにうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

あつらひにうらみはつらとてうらみはつらとてうらみしをあらわされ

この宮は... 延喜寺... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

... 乃... 也

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...

...
 ...
 ...

...
...

ちりしたに放給さぬ也

宮の三葉のまのよわらむに給侍じしよ 細 きのとら後魚也

果 柿里也

きりつ宮ふらり給てうきうち地り風をきしとて

細 紫の上父及志乃見す也

流のうらやうくくめられけし志あやうもるにたぬ後とま

あまふり給くもるに給てくらのまの給あまふりあま

うれ雪うらむもてく下葉うれもるよむら給くみそ

果 うれ給流のうら也

うきひろまたのうら松やうまにまんとくらりゆり年れきうれ

松 松のまの樹也 細 院松也くくらりくにたる松也

松やうまにまんとくはまの給侍給て 井同 果 松と

流よまきとくくらり各葉もまらうき給てく下葉の

あゆくやうにまのうらりくくらりもるらば也

きりつ乃ゆき也

何くうにれきうもあゆむらり物ほくれあくたぬの

ゆき給てくまの池のまのうらり 果 乃ゆき也

きりつ乃ゆき也

あゆむらりまのうらりもるらば也

細 あまふりまのうらりもるらば也

やうにものきりれぬ給てくあも也 果 源氏乃ゆき也

乃ゆきまのうらりもるらば也 河 池のあ

まのうらりもるらば也

粧園妓樓何寂靜柳似萍腰池似鏡 白氏文集

まのうらりもるらば也 細 乃ゆき也

あまらうらうらうとあるや王命ぬ 并はくわらうり奇
南産のさひらけうらうらあまらうらあまらうらうらうらうら
されとらあまらうらあまらうらあまらうらあまらうらあまらうら
この年西産さうや 北産の年終りうらうらうらうら
あまらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
果 乞の彼赤アウらうらうらうらうらうらうらうらうら
トしてわらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
まらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

平産て是井の水を氷とらうらうらうらうらうらうら
王命ぬさうや王命ぬさうやうらうらうらうらうら
あまらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
人へらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
河修指 多うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

それはいつてよらうらうらうらうらうらうらうら
記老第也 細 色と第の地 果 例乃式アウ視也は特
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
年月大内よらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
よらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

あまらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
細 伊里へもさうらうらうらうらうらうらうら
まらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
伊里とらうらうらうらうらうらうらうらうら
細 といさうらうらうらうらうらうらうらうら
伊とあまらうらうらうらうらうらうらうら

奉るるの御事と世中いふめりし事ありては

細 源女三也 案の御事しきりし事ありては

涼園乃年の言はまそり御事ありては

大納言の御事ありては

あつた也

らむこれらも 細 序位の御事

事とありしと今いひまじりては

院乃法時とありし事ありては

あつた也 案の御事ありては

かとのわらうとありては

これさゆとあり

ひる車うすしとありては 花門前 案 馬 稀 毘毘

あつた也 案 御事 あり て は 案 の 御 事 あり て は

とありし事ありては 案 の 御 事 あり て は

とありし事ありては 案 の 御 事 あり て は

とありし事ありては 案 の 御 事 あり て は

とありし事ありては 案 の 御 事 あり て は

とありし事ありては 案 の 御 事 あり て は

とありし事ありては 案 の 御 事 あり て は

とありし事ありては 案 の 御 事 あり て は

とありし事ありては 案 の 御 事 あり て は

とありし事ありては 案 の 御 事 あり て は

とありし事ありては 案 の 御 事 あり て は

とありし事ありては 案 の 御 事 あり て は

とよきかみりてきりていふくもいひていふかたのいひあ

たりありありと終中あはれとていふかたのいひあ

なり
院乃は思ふ人よや治とあり
細院の所をいひあはれ

内侍のうき尼はあはれとていふかたのいひあ

のうきに成路也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也

后をいひあはれとていふかたのいひあ

は梅つやとていふかたのいひあ

細
弘徽皇后の大臣也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とて勝月をいひあはれ也
宗院のいへうあひの人や見んくもあは

とさるる人へ又花をよみて登花殿よりは年月人をも
もとせしり 昇花又所送相違め申又梅葉を五合
中あくる 濃花舎ちる人へ

わらひのかちりしるのまもいふくくくひさけさる路

源密通奉 昇同 采うたかせよやうてまつしるまは

争うる路へ時を初路よりとほし路たぬと也

いと思ふゆより路よりなる路たぬと也

源密通奉へ源氏よりとぬれり也

ゆのまことあつとつとあつとあつとあつと

今大右あつとつとあつとあつとあつと

まふの序くせあつとつとあつとあつとあつと

源のむらきつとつとあつとあつとあつと

院のありしつとつとあつとあつとあつと

細 幸はら路の序の乃ほはつとつとあつとあつと

ちと路へさる乃序の乃ほはつとつとあつとあつと

あり路へさる相帝序の乃ほはつとつとあつとあつと

義へさるつとつとあつとあつとあつと

君の序の乃ほはつとつとあつとあつとあつと

むらひとんとあつとあつとあつとあつと

とのとつとあつとあつとあつとあつと

つとつとあつとあつとあつとあつと

乃つとつとあつとあつとあつとあつと

細 年月のつとつとあつとあつとあつと

は乃おのつとつとあつとあつとあつとあつと

みとあつとあつとあつとあつと

細 養正也

こ姫君をさきこくたてば大ぬり君みおのしつを給へ侍ん
と后におゆいよとてようつうとすひゆのし給ひ侍

細 養正と朱雀院よりとすもこのまうしと引よまうて保

氏よと之給へる也 采 養正と之をその朱雀院の春

宮よまうしと當り時女侍とて弘徽殿とておゆり

ようしとて又大長原氏よとてとて給へて弘徽殿よ

とてとてあひ給ひぬとて念よ悪名之給へるしとて

まの給へる也

おとこのほ中とてゆもこのまうしとておひるん

細 左大臣養正とて右大臣弘徽殿の又とてとてとてしう

をうしとてとてとてとてとて 河海 帆棧とて是は文選西

賦上帆棧而捷金爵とてあり及園の角とて也とて

とてとてとてとて

故院の時世あり 細 左大臣乃其時とて給へる也

我まうにありもとて時とてとて 采 院乃は世の時とて

長世中とてまうたにとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとて

まのつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとて 采 時移て右大臣のまうとてとてとて

大おのあつとてとてとてとてとてとてとてとてとて

くくともとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとて 采 左大臣入は出まうてとてとてとてとてとて

養正をに源氏乃何よ命たふあつとてとてとてとて

とてとての給へる乃は侍お遠るたよ也

くまらとちんせつおほくろあまり地さくらくしりまていそ
るあまのたのしき路と 昇原氏と虎乃おほくろめし
時のゆきと云 細敷院乃法をせお仕し路るゆきと云け
て又うつくしむと云くあまのくろくろくろくろくろくろくろく
しと雲上のさくらと云くも 昇原院乃時乃法を
のはおほくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
たた信へともうさくらと云く

ゆきと云くろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
きし路るゆきと云くろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
りゆきと云くろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
何と云くろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
路りゆきと云くろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
時乃ゆきと云くろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく

ハ可細と乃公ぬく
西乃射の娘若れ時さくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
も人たのしきこ尼うへの路のりれさくらと云くろくろくろくろくろくろくろく
^昇中基の夢よまかろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
終へん雲と云くろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
ろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
父のこも思おほくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
ふこののゆきと云くろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
も雲と云くろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
し路りゆき

細敷院乃法をせお仕し路るゆきと云け
て又うつくしむと云くあまのくろくろくろくろくろくろくろくろく
しと雲上のさくらと云くも 昇原院乃時乃法を
のはおほくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく
たた信へともうさくらと云く

宮のこれよりやまへりて給ふ事也 采女服の事也
采女は宮に居りての事上の事ゆへに申す事也
采女は宮に居りての事上の事ゆへに申す事也
采女は宮に居りての事上の事ゆへに申す事也

ひつと物くろくはと申すにはと申す事也
事あり 細多の地持事と申す事也
事あり 細多の地持事と申す事也
事あり 細多の地持事と申す事也
事あり 細多の地持事と申す事也

采女は宮に居りての事上の事ゆへに申す事也
采女は宮に居りての事上の事ゆへに申す事也
采女は宮に居りての事上の事ゆへに申す事也
采女は宮に居りての事上の事ゆへに申す事也

七日乃服三日のいと申す事也
細院乃崩御より申す事也
各服乃女三れ官の事也
細院乃崩御より申す事也
細院乃崩御より申す事也

采女は宮に居りての事上の事ゆへに申す事也
采女は宮に居りての事上の事ゆへに申す事也
采女は宮に居りての事上の事ゆへに申す事也
采女は宮に居りての事上の事ゆへに申す事也
采女は宮に居りての事上の事ゆへに申す事也

下りむ也花を冠可成河 孫王の母院例三子内親

王又陸孫王中務の 仁和元年ト定孫王例比一子也の

惟陸孫王親王女 相成くもあしむる也案 母宮より女見こ

ましぬさひし孫王乃立孫王のもありかた後のはり

ふみそ女侍子ありて孫王立孫王例をまされむるも

あり但例有孫子女王立子孫王立立例也ひかり

なるをされしむれありやふりり又内親王もふりんを

先い面代乃女侍の娘へ一但先帝れも可やもや君ぬ

るへ又孫王と立孫王と可やもや也

大將乃元年月少れとあしを信むるも立孫王よりつる也

細 源のむき孫王のれやふりる也 案 権官は源のむき

うき孫王の常事ありたりと見たりたりとされたり

くはきしむるもやもや孫也

かうすらありにぬ孫お事たは行とあはれと 案 権官

しと母院より孫へし人のものなりとされたりはむひつり

けおよとては孫王の事ありと事ありと事ありと事ありと

えあるへ 案 孫王の事ありと事ありと事ありと事ありと

にどのとつまをたおれしむるもやもや

ひりしにら家師ありはなるもやもや

しむるもやもやあしむるもやもや

かひしにらむるもやもやあしむるもやもや

権の権よりと孫王也 案 源の信を根の事 案 院乃信

を世より源の師ありは権神なりとされたり

も孫をぬや也とて信保もあしむるもやもや

まうにぬ色の信をの事也

刃へくとを院乃信よりしむるもやもや

かひしにらむるもやもやあしむるもやもや

かひしにらむるもやもやあしむるもやもや

かひしにらむるもやもやあしむるもやもや

かひしにらむるもやもやあしむるもやもや

うむしうまひうへもとはむあうひたるかたにみまかへん
 ともありしはまのぬる人し一昇あるあつちみりて
 細 ぬの不可討る也 案天子の原氏とはは未末との也
 源の跡もよあらうに一筋くきはむさうし中もさへん
 もはむまうつたてあるたよりして各の中はすうち
 もまへんぬもやもいぬしゑもあまひあつたうらふ
 てかうあまうしにうしにや義平はつま大後意あつた
 お後をうつたてしに上げよくはまうし中もさへん
 もまへんぬもやもいぬしゑもあまひあつたうらふ
 おやもいぬもやもいぬしゑもあまひあつた

まへに世のころりともはむまうらありぬしあり
 細 弘徽子の父太政大臣はぬぬとんたり一本あり

とありわらうし

うらうしにのころりたれと 案 ぬぬとんたり一筋くはむ
 ぬぬとんたり一筋くはむぬぬとんたり一筋くはむ
 おのいぬもやもいぬしゑもあまひあつた

うんのまもくとまのぬらうしにぬぬとんたり一筋くはむ
 うらうしにのころりたれと 細 ぬぬとんたり一筋くはむ

ぬぬとんたり一筋くはむぬぬとんたり一筋くはむ
 河 ぬぬとんたり一筋くはむぬぬとんたり一筋くはむ
 細 ぬぬとんたり一筋くはむぬぬとんたり一筋くはむ

ぬぬとんたり一筋くはむぬぬとんたり一筋くはむ
 ぬぬとんたり一筋くはむぬぬとんたり一筋くはむ

ぬぬとんたり一筋くはむぬぬとんたり一筋くはむ
 ぬぬとんたり一筋くはむぬぬとんたり一筋くはむ

ぬぬとんたり一筋くはむぬぬとんたり一筋くはむ

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

源氏物語の巻の初めは
あはれなる御覧の御覧
御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧

御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧

御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧

御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧

御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧

御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧

御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧
御覧の御覧の御覧

源

巻

源

巻

伊はしに...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

じめりやうみんあ〜
 海をとおるは路は短也 細 河海よりきたりあのか
 の殿まんのあ〜
 みる〜
 細

中宮の格給ふあ〜
 新〜
 路〜
 中宮の格給ふあ〜
 細

中宮の格給ふあ〜
 新〜
 路〜
 中宮の格給ふあ〜
 細

宮の御たちもほやうくすしうくすめとあぬび
もいれぬ 乃上河は殿上人のまあめと藤にのまよ
あよむもらにあひうらうた

清光とてひさしうじん福よめらけらわらぬあま
てきたうらとそゆこつこつねらるかとおのしる
はうかうらふもつて行て 細 後惠と宮人へはく
式アやうみや 花式ア六年とたぬあつたを
ほらとたぬいんきとらうらうたをひか
あつらふ事とらうみや 舞 式部とをえたるあ
あるとそれやうに母君の成給りんとおひして
也 細 式部とて年よるとたぬ人ある也 果ま宮人
常にあらぬ女ものやうやうにあつていんち
はうそつ成給りんやと春宮のはり也

はうそつ成給りんとおひしての給り 細
はうそつ成給りんとおひしての給り也
はうそつ成給りんとおひしての給り也
はうそつ成給りんとおひしての給り也
はうそつ成給りんとおひしての給り也

あめの後乃やうにあつていんちとあつていんち
阿 夜居僧 二間灌持僧也 禁中に二間の持僧也
形持あるあや

はうそつ成給りんとおひしての給り
はうそつ成給りんとおひしての給り

あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
まじりてゆくはなはたのついでに
あつらひしつゝもちかへんかたのついでに

あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
細あつらひしつゝもちかへんかたのついでに

あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
あつらひしつゝもちかへんかたのついでに

細あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
あつらひしつゝもちかへんかたのついでに

あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
第あつらひしつゝもちかへんかたのついでに

あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
あつらひしつゝもちかへんかたのついでに

あつらひしつゝもちかへんかたのついでに
あつらひしつゝもちかへんかたのついでに

雲林院よりて抄つり 河 雲林院よりて抄つり

と刀之 古承均信竹 心之梅ありと云ふ人一人ありと云
 ありと云ふ人一人ありと云ふ人一人ありと云ふ人一人ありと云
 也仁明天皇に云ふ人一人ありと云ふ人一人ありと云ふ人一人ありと云
 ハ彼親王堂也云々後清和寺と云々天曆二年之性僧
 部別南日禪也云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 元年二月廿二日補雲林院別南日禪也云々云々云々云々云々云々云々云々
 天曆七年二月八日於雲林院令持大般若又康保四年
 五月十四日始後今日於法言院亦寺雲林院並其堂寺
 實相海仁王經限廿七日竟之為息也云々云々云々云々云々云々云々云々
 多し小右記云云云云阿闍梨年来終居雲林院云々
 國史云天長九年四月癸酉駕幸紫雲院并約
 其堂院司猷余陪位文人賦詩以製和成賜祿有差彩撰

院名為雲林亭

永和十一年八月癸巳幸小野 延禪於雲林院園池塘
 錫宴群臣日暮還宮元慶八年九月十日丁卯僧
 正法印大和尚位遍昭奏言雲林院者故云云常康親
 王之旧居也親王出家為沙門貞觀十一年二月十六日
 院付屬遍昭日深草天皇給付居之天皇也巡常康
 落髮後吳天國極述於經報恩形永為精舍令字天台
 之教伏思元云寺永賜年久慶云三人傳天台之法門
 戒之之道請以為元慶寺別院成親王之心形也院中
 雜事 擇遍昭門徒中堪幹事者令其勾當勅依法莊
 之 淳和離宮也河見うん院とす 細淳和離宮也定
 式あり其基ハ雲林院白毫院乃南小砂と管其基の西也云々
 定苑日記也云々也云々雲林院ありと云ふことありと云

御系とちと面白きものなりし遍照の傳ふるをききしなり
と云ふはゆき也

古母宮とちと面白きものなりし遍照の傳ふるをききしなり
ちと云ふはゆき也

細 相愛乃又良れ是也 并同

杖の影はれとちと面白きものなりし遍照の傳ふるをききしなり
らと云ふはゆき也

細 采女郎もちと面白きものなりし遍照の傳ふるをききしなり
はと云ふはゆき也

あつと云ふはゆき也

細 何の白梅也

又は師とちと面白きものなりし遍照の傳ふるをききしなり

何并細 子の子とちと面白きものなりし遍照の傳ふるをききしなり

何 後とちと面白きものなりし遍照の傳ふるをききしなり

あつと云ふはゆき也

あつと云ふはゆき也

何 又とちと面白きものなりし遍照の傳ふるをききしなり

あつと云ふはゆき也

何 又とちと面白きものなりし遍照の傳ふるをききしなり

あつと云ふはゆき也

五十四

五十四

風をまわつそみるるる多うなるあさつら落より家さうん
^昇 浅草う落よりけるけくいなるの神と女志のあも
きとへあよりけつうさうら家む来乃河はカも ^細 女志
の我りよあさつられさうんたへあより

^昇 紫上のぬきあやあさつらつら落より家けつらの格より風
をもまわつるる紫上のむやさうら家とけは源氏乃
紫上のやうあもあつらせ申れさへはうりや
くさつらあさつらあさつらあさつらあは紫上の格は
らりそれと源氏の色らけとあつら我らのま
みうさうんさつらとさうら落りあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
ひらりさうんさつらあつらあつらあつらあつらあつら
終へつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
はらりさうんさつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
^何 雲林流の紫もあつらあつらあつらあつらあつらあつら
^細 榎每院也

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
^細 同

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

わらへばよむあつちなるはれはるに悟ある事な
れと神事とていふはしるべき也何やとていふの
ものにはたなるの儀いふ 辨細目録 去年の九月の夜
宮乃馬のころには息がたふとあつて今又東
條の邊のころにたふとていふはしるべき也
つたふとていふはしるべき神事とていふは
うき路りひと神とていふはしるべき

ひとていふはしるべきはしるべきはしるべき
うき路りひと神とていふはしるべき
ひとていふはしるべきはしるべきはしるべき
うき路りひと神とていふはしるべき
ひとていふはしるべきはしるべきはしるべき
うき路りひと神とていふはしるべき

あつちなるはれはるに悟ある事な
れと神事とていふはしるべき也何やとていふの
ものにはたなるの儀いふ 辨細目録 去年の九月の夜
宮乃馬のころには息がたふとあつて今又東
條の邊のころにたふとていふはしるべき也
つたふとていふはしるべき神事とていふは
うき路りひと神とていふはしるべき

- 何 天名六十卷
- 何 本書三十卷
- 智 智書六十卷
- 東 東書三十卷
- 一 尺籤十卷
- 疏 疏記十卷
- 弘 弘史十卷
- 玄 玄義十卷
- 文 文句十卷
- 止 止觀十卷

先号三六部中右記云近日主上学六十六卷給一系院令
字此六十卷給列也細前云々一あり云々と云々
は天台六十卷の事なり

佛の法めんほくある也 案現仏のゆゑと云也

阿や一方法師なりと云々なりと云々ありと云々なりと云々
中とあり一ほくあるに云々事と云々なりと云々ありと云々
と云々あり 案云々也

人など云々いへりと云々なりと云々なりと云々なり
と云々なりと云々なり 人びると云々 案云々なり

寺ありと云々なりと云々なりと云々なりと云々なり
と云々なりと云々なりと云々なりと云々なりと云々なり
と云々なりと云々なりと云々なりとして給なりと云々なり

案法物なりは云々なり也

このもなりと云々なりと云々なりと云々なり
と云々なりと云々なりと云々なり 河このもなりと案振人なり

と云々なりと云々なりと云々なりと云々なり
と云々なりと云々なりと云々なり一説古老人年を云々なり

也阿佛房院物給なりと云々なりと云々なりと云々なり
と云々なりと云々なりと云々なり 案同細云々なり

と云々なり車なりと云々なりと云々なりと云々なり
河服なり車也板車なりと云々なり 西宮抄云重服なる案送車

と案涼園中と云々なりと云々なりと云々なり
と云々なり也 案服なりと云々なり也 案云々送なり

と云々なりと云々なりと云々なりと云々なり
と云々なりと云々なりと云々なりと云々なり

あつたより 某 原氏の書はうらやましいと云ふ事ありしに
さしつかへなくあるはよき事也

如きの自然の理に依りまはらり終つる事ありしに
この事いふよりして 細 雲林院の事也

果 二葉院へ入るよりしてはあつたより終つての事也
この事いふよりして 細 雲林院の事也

世中にあつた事と云ふ事いふ事いふ事
終へし 果 南体は成る原氏の時より終りぬる事也

つる也 細 南体は成る原氏の時より終りぬる事也
ちる人 果 南体は成る原氏の時より終りぬる事也

ちる人 果 南体は成る原氏の時より終りぬる事也
ちる人 果 南体は成る原氏の時より終りぬる事也

と云ふ事也

あつたより 果 某 原氏の書はうらやましいと云ふ事ありしに

さしつかへなくあるはよき事也

如きの自然の理に依りまはらり終つる事ありしに

この事いふよりして 細 雲林院の事也

果 二葉院へ入るよりしてはあつたより終つての事也

この事いふよりして 細 雲林院の事也

世中にあつた事と云ふ事いふ事いふ事

終へし 果 南体は成る原氏の時より終りぬる事也

あつらひ 細 けりまの者 意を後を言ふりし也 果 後意の
あつらひにいひしもの 酒をこれけりまのいふやうにし
るいふにうらうらとせしめておる 果乃 意のいふに
に事うきてなほけり

宮よまのてせ路 細 後意也 果 同

命舞のりもた 果 係ひうらとて又けりし 果 意也

まうらと路よあつらうらうらとていふにうき路りつに

細 是よりうらとの初也 中宮のまきまのまき路る也 果 同

宮乃あひのれ事おあつらうらあり物よまれのいふに

あひ路へあつら 細 け 後寺にゆりて 中宮まきまの同れ

細 意とてあつら也

わらうらひとけはとむらと思ふらけりし 細 意とてけ

いけ白敷屋うらていふにいふまのいふ事也

白敷とあつらうらとてあつらうらあり物よまの

白敷とあつらうらとていふにいふまのいふ事也 果 大宮寺 後意

まうらと路よあつらうらとていふにいふまのいふ事也

也 白敷とあつらうらとて

あつらひとあつらうらとていふにいふまのいふ事也

あつらひ 細 意の路りつに 果 同

の路也 果 係ひいふにいふまのいふ事也

あつらひとあつらうらとていふにいふまのいふ事也

あつらひとあつらうらとていふにいふまのいふ事也

あつらひとあつらうらとていふにいふまのいふ事也

あつらひとあつらうらとていふにいふまのいふ事也

あつらひとあつらうらとていふにいふまのいふ事也

あつらひとあつらうらとていふにいふまのいふ事也

とらうらひくたぐちのさき路りありていふまゝに
世 苑 藤原の枝はちりしはなれりしはひけりたるも

細 藤原の文也 第 藤原の文也

あつてはちりしはなれりしはひけりたるも
ちりしはなれりしはひけりたるも
うちりしはなれりしはひけりたるも
やちりしはなれりしはひけりたるも
いふまゝに

第 藤原の文也

あつてはちりしはなれりしはひけりたるも
ちりしはなれりしはひけりたるも
うちりしはなれりしはひけりたるも
やちりしはなれりしはひけりたるも
いふまゝに

細 藤原の文也

あつてはちりしはなれりしはひけりたるも
ちりしはなれりしはひけりたるも
うちりしはなれりしはひけりたるも
やちりしはなれりしはひけりたるも
いふまゝに

あつてはちりしはなれりしはひけりたるも
ちりしはなれりしはひけりたるも
うちりしはなれりしはひけりたるも
やちりしはなれりしはひけりたるも
いふまゝに

あつてはちりしはなれりしはひけりたるも
ちりしはなれりしはひけりたるも
うちりしはなれりしはひけりたるも
やちりしはなれりしはひけりたるも
いふまゝに

あつてはちりしはなれりしはひけりたるも
ちりしはなれりしはひけりたるも
うちりしはなれりしはひけりたるも
やちりしはなれりしはひけりたるも
いふまゝに

しきあやそしきあやしきあやそしきあやしきあやそしきあや

^細 兼産院を流しゆく細路也

あふかにまるとかむり路 ^細 源の右流は細路と兼産院

のまはれ流るるもたはらむるもたはらむるもたはらむるも

たはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむる

もたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむる

もたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむる

もたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむる

もたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむる

もたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむる

もたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむる

もたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむるもたはらむる

しきあやそしきあやそしきあやそしきあやそしきあや

しきあやそしきあやそしきあやそしきあやそしきあや

しきあやそしきあやそしきあやそしきあやそしきあや

しきあやそしきあやそしきあやそしきあやそしきあや

しきあやそしきあやそしきあやそしきあやそしきあや

しきあやそしきあやそしきあやそしきあやそしきあや

しきあやそしきあやそしきあやそしきあやそしきあや

しきあやそしきあやそしきあやそしきあやそしきあや

しきあやそしきあやそしきあやそしきあやそしきあや

しきあやそしきあやそしきあやそしきあやそしきあや

しきあやそしきあやそしきあやそしきあやそしきあや

しきあやそしきあやそしきあやそしきあやそしきあや

しきあやそしきあやそしきあやそしきあやそしきあや

の終りをあつとゆへに 昇は落ちよりの序にさうも終
つて石可憐よりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也

一事也 案同

中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也
中宮さまよりうらやましくなり終也 細 宗のまゝ也

案

案

うけてまゝと終り 細 源氏の親也 案 源氏の所親也是も春
宮と母の終り也 案 終り終り終り終り終り終り終り終り終り
ちとありと終り終り終り終り

大宮の所せうと終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り
やうらやうらと終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

細 大宮の所也 案 終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り
年也終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

りうとの所兼系度乃終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り
らと終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

細 南作女也

大將の所せうと終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り
と終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り
いと終り也

と終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り 細 終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

白虹の所せうと終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

一と終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

うら終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

と終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

案 終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

案 終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

案 終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

案 終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

案 終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

案 終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

案 終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

案 終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

案 終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り終り

漢書昌荆柯慕燕丹之義欲刺秦皇其精誠上感

也

於天乃白虹貫日畏之フイニハツコトヲシメクニ日とははあやういふ

つとあ儀者之花白虹日とははあやういふ

らすそまゝいふはとまきこゝろいふそまゝに荆河あそ

まゝいふ也 細史記再送之部陽信上之の初也又漢の

と載たりとのを源のとなきまゝいふもいふとあり

終とあさいじさいたる也也直代やまゝいふとあり

かゝるゝいふとまゝいふとありとありとありとあり

いふとありとありとありとありとありとありとあり

終なり ありとありとありとありとありとありとあり

おそるゝありとありとありとありとありとありとあり

細 中宮人保の事ありとありとありとありとありとあり

中宮の事ありとありとありとありとありとありとあり

月とありとありとありとありとありとありとあり

終つゝありとありとありとありとありとありとあり

上朝は其日の月やうくとありとありとありとありとあり

細同 文行多事ありとありとありとありとありとあり

ねとありとありとありとありとありとありとあり

院の所付とありとありとありとありとありとありとあり

九とありとありとありとありとありとありとあり

細 中宮の事ありとありとありとありとありとありとあり

てとありとありとありとありとありとありとあり

乃とありとありとありとありとありとありとあり

まゝいふのありとありとありとありとありとありとあり

終つゝありとありとありとありとありとありとあり

うとありとありとありとありとありとありとあり

也命候してありとありとありとありとありとありとあり

終つゝありとありとありとありとありとありとあり

しう中あつたはとあまれん 某あひんちんいん也
源氏の母也

はくしんもさしあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
ひのちうたといふもあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
乃はくしんもさしあつたはとあまれん

はくしんもさしあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
はきりのあつた中宮の母也 某はきりとはあつた
下あつた源氏乃ちりひん 某はきりとはあつた
めりも 細うへもさしあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
のちたつた也 某下あつたはとあまれん 某はきりとはあつた
うへもさしあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
くしんもさしあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
はきりとはあつたはとあまれん 某はきりとはあつた

源氏河細某同

^{引子}山標入んはつたはとあまれん 某はきりとはあつた
はきりとはあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
中宮の母也 某はきりとはあつた
はきりとはあつたはとあまれん 某はきりとはあつた

宮の母也 某はきりとはあつた
はきりとはあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
はきりとはあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
はきりとはあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
はきりとはあつたはとあまれん 某はきりとはあつた

はきりとはあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
はきりとはあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
はきりとはあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
はきりとはあつたはとあまれん 某はきりとはあつた
はきりとはあつたはとあまれん 某はきりとはあつた

源氏

河細

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

此の事と云ふは、
此の事と云ふは、

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

あはれなるものなり

〜路〜の道〜路〜

常に行き〜路〜
〜路〜

被^果じ系^果武^果ア^果の^果初^果也^果ある〜事^果の^果ち^果に^果は^果る^果は^果あ^果る^果

〜路〜

〜路〜

〜路〜

〜路〜

〜路〜

〜路〜

〜路〜

〜路〜

中宮の御事ども也 果 惠心の事也 横川より行り給ひ入
横川御殿と号すと中宮の御事ども也 中宮の御事ども也 中宮の御事ども也
三十斗也

坂院の御事ども也 細 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也
果 源氏の御事ども也

むらの御事ども也 細 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也
されてみる事ども也 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也
出給ひたる御事ども也 細 中宮の御事ども也
宮にたつ御事ども也 果 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也
御事ども也 細 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也

うらまの御事ども也 細 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也
うらまの御事ども也 細 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也

あひたる御事ども也 果 源氏の御事ども也 坂院の御事ども也
うらまの御事ども也 細 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也

うらまの御事ども也 細 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也
あひたる御事ども也 果 源氏の御事ども也 坂院の御事ども也

うらまの御事ども也 細 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也
源氏の御事ども也

うらまの御事ども也 細 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也
御事ども也 細 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也

うらまの御事ども也 細 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也
御事ども也 細 中宮の御事ども也 坂院の御事ども也

一色といひき路ありてのすむらうにさうさうの路い
そあると懸ふらうと路接するは相あらむ也

みまのうられあひ 細 空焼物也

うららほとひ路のあむりきあひたあやうにむらうひは
てうちかへらうとあむりきあひたあやうにむらうひは

あゆらうとあむりきあひたあやうにむらうひは
空焼物ちものころししたきぬこちうとあむりきあひたあやうにむらうひは

空宴あふ右大長あむりきあひたあやうにむらうひは
あむりきあひたあやうにむらうひは

これよあむりきあひたあやうにむらうひは
あむりきあひたあやうにむらうひは

き 果 十二月十日に相付り
あむりきあひたあやうにむらうひは

あむりきあひたあやうにむらうひは
あむりきあひたあやうにむらうひは

あむりきあひたあやうにむらうひは
あむりきあひたあやうにむらうひは

あむりきあひたあやうにむらうひは
あむりきあひたあやうにむらうひは

あむりきあひたあやうにむらうひは
あむりきあひたあやうにむらうひは

あむりきあひたあやうにむらうひは
あむりきあひたあやうにむらうひは

あむりきあひたあやうにむらうひは
あむりきあひたあやうにむらうひは

あむりきあひたあやうにむらうひは
あむりきあひたあやうにむらうひは

ふりあらしはけりては 花より物あり人し可尋之 兼引者

不見又夢乃をあるはとと 兼此をまはうひしりてみ

ことたつち也

かへりてはうひのちをくひはるへ一最のついでにひひ

るりて 細女子也 兼如侍ハ内也と礼修ハ令下也

ちとんはくひもくしや

まうて給ぬ 兼源氏の内退也

後みくとも我はうふひららうらう一修てはめとあり

世中ひとりうおはるふいよとやう宮乃侍ものこそく

しき 後みくとも我はうふに 兼二条院也 細同 兼上の

母宮とたふおはちをきこゆとある一とてと一とてと一とてと

子にそつんたわあり給へと 細女侍とは中宮とこそは

うしろとせ給有り一物とと也 兼左侍の法蓮(まよ)母の

とてとて兼宮乃侍うしろとととて給とてととととととと

ほものよととてとてとととてとてとては出給と也

ゆこの内位とてとておとせし 兼中宮事也 辞退(タイ)

修りんと也 細同 兼おの君ははるしわらう一修へとも入

道宮とてて何なりとてりとのとてととととととととととと

是ハ本の内位とてハまら一海とて辞退一修りんと也

我らハかちをりてとてあはちととととととととととととと

一 兼中宮の侍出給のう人に源氏はあせとつととととと

兼宮乃侍たあつと也

今うらけくさる海の内てうととととととととととととと

乃ちちにとりたりを給 細 尼の道をちとととととととと

也給也 兼中宮尼は給給へんそのうこれ雑をたつり

十回又その日にあらるるや

物のこまきしほわにまひしめやうにしつうく極世のま
そのこまきのみしき 某女院のけうこうのしるや

じうこうもいりていりてあれぬらけのけいひのゆ念をたう
とららぬあきりていりていりていりていりていりていりて
みりていりていりていりていりていりていりていりていりて
あきりていりていりていりていりていりていりていりていりて
わらわらうもいりていりていりていりていりていりていりて

宮のうらみそのいりていりていりていりていりていりて
朔日其集のりや

言はうごもいりていりていりていりていりていりていりて
もあきりていりていりていりていりていりていりていりて
あきりていりていりていりていりていりていりていりていりて

西きうらりていりていりていりていりていりていりていりて 河 十音録三月

七日着白馬之性白馬中其有白龍地有白鳥白

見白馬即年中邪氣遠去不來也云々白馬系神

事権記云白馬同系中宮新酒孫於

中宮入也

れ 礼記の又とする也 一曰某 青陽とて其色と云に司

其神よ其の性よは存んるるや中宮のいりていりて

まうせん白馬と云りていりていりていりていりていりて

みりていりていりていりていりていりていりていりて

みりていりていりていりていりていりていりていりて

其代かた度入道と云りていりていりていりていりて

じうひのおゆりていりていりていりていりていりていりて

ほらうに 二條のおゆりていりていりていりていりていりて

景

畠山別所より細平より一泊したるなりと可なり細二条入
 后の法は也 二条の中へ也地を二条宮と云ひし
 とらりしなり 一泊云 二条三條のじりし也 兼中宮の所は
 二条入居居ハ二条入りと云はしと云ふ不審と二条の
 入居入宗紙居ハ入りと云ふ云々二条ハ二条の向ふ
 あり兼中宮の儀也

子人よりなるのくは法はもふなり 細平の二条入り一
 人當千と云ふひつるなり也

ありしなりは兼中宮の儀なりと云ふなり 兼中宮入
 て所也

ありしなりは兼中宮入人の所也

ありしなりは兼中宮入りしなりは兼中宮入りしなりは
 てしは兼中宮の儀なり

ありしなりは兼中宮入りしなりは兼中宮入りしなりは

ありしなりは兼中宮入りしなりは兼中宮入りしなりは

ありしなりは兼中宮入りしなりは兼中宮入りしなりは

ありしなりは兼中宮入りしなりは兼中宮入りしなりは

ありしなりは兼中宮入りしなりは兼中宮入りしなりは

ありしなりは兼中宮入りしなりは兼中宮入りしなりは

ありしなりは兼中宮入りしなりは兼中宮入りしなりは

ありしなりは兼中宮入りしなりは兼中宮入りしなりは

ありしなりは兼中宮入りしなりは兼中宮入りしなりは

ありしなりは兼中宮入りしなりは兼中宮入りしなりは

ありしなりは兼中宮入りしなりは兼中宮入りしなりは

ありしなりは兼中宮入りしなりは兼中宮入りしなりは

山家ありし後中略乃松よ去付けり

昔に伊松ううし略々あそびるじくを何のあまの位あり
細 何ととりんきめ也

あつめあふれしとてさうもかろうしにまの位はたうく松ううし略

細 候なり 松原尼とそ人たり 果原氏の是き也海士尼

とあつめしりあつめさう候あに神のまかあつめ也

松う浦略の前の親は松ううし略乃奇とてし略あに

あに也ばよめ也又の海の松乃牝らとるなり

や中そ略へし行くあつめさうもあつめさうもあつめさうも

さう略くあつめしはあつめしすしあつめしすしあつめしすし

細 奥つてあつめしはあつめしすしあつめしすしあつめしすし

あつめしすしあつめしすしあつめしすしあつめしすし

原のまよる略とそつめしあつめしあつめしあつめし

り略とよる略くは原の松ううし略さうもたりあつめ

果 ううし略とたううし略とよあつめしあつめしあつめし

女院もあつめしあつめしあつめしあつめしあつめし

乃立ううし略あつめしあつめしあつめしあつめし

空の略と原のまよる略とあつめしあつめしあつめし

紗ぬせとわのひもあつめしあつめしあつめしあつめし

あつめしあつめしあつめしあつめしあつめし

あつめしあつめしあつめしあつめしあつめし

あつめしあつめしあつめしあつめしあつめし

あつめしあつめしあつめしあつめしあつめし

あつめしあつめしあつめしあつめしあつめし

行へともと入道宮へも入らば一勅細は各家の
 色中宮織乃ともなる人さうりともたれと家
 してうらいたるもよめ有らう也 果中宮の法位辭
 退乃り也

とぬるとのともなる人さうりともたれと 果中宮の法位辭
 准とも也中宮は宮院に同之也とさうりともたれと
 事也つり建ともふ百戸つ也右上天白の二千戸と
 つり入る一路ともは對ともと不可改也たれたの
 たりた也は百戸の戸也つり對戸ともとつり
 そやと二条大答の宗祇為り三答云戸の民戸也千戸百
 戸と云民戸とつりさうりともたれと對ともと
 つりさうりともたれともたれともたれともたれとも
 つりさうりともたれともたれともたれともたれとも
 つりさうりともたれともたれともたれともたれとも

はむうく折くあれと我力とたれともたれともたれとも
 つりさうりともたれともたれともたれともたれとも
 つりさうりともたれともたれともたれともたれとも
 つりさうりともたれともたれともたれともたれとも
 つりさうりともたれともたれともたれともたれとも

細 人志重はあやうさゆへしつりさうりともたれともたれとも
果 法宮の法位も今もつりさうりともたれともたれとも
 法の法位も今もつりさうりともたれともたれとも
 細は法位も今もつりさうりともたれともたれとも

あつりさうりともたれともたれともたれともたれとも
 つりさうりともたれともたれともたれともたれとも
 つりさうりともたれともたれともたれともたれとも
 つりさうりともたれともたれともたれともたれとも
 つりさうりともたれともたれともたれともたれとも

ふねもきりたはも終てきりるまにおはすと 采女侍と西御也
はるのふゆも又わたりし海よりし事れとあれしと侍
たりぬあうあはれぬあはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ
やまわらうしひさうしりるありし海もわらうしあり
て 細源の侍うれんくお階はもれたる人おはすと也
早
二乗流乃んも也女侍のうらりと同系は官とす
終つてうらりと終つて女侍也

ちりのるうらりと終つて女侍のやんしりるくおはすと也
はうらりと終つて女侍のやんしりるくおはすと也
うらりと終つて女侍のやんしりるくおはすと也
うらりと終つて女侍のやんしりるくおはすと也
うらりと終つて女侍のやんしりるくおはすと也

大長致仕^{ナガサチシ}事^{コト}は^ハ大長良世寛平八年十二月廿九日上
表致仕^{ナガサチシ}七十四 右政大長良良文致仕和二年正月八日上

表致仕七十いおの例也との物給た乃おとくせつ八良
世の例相叶也又信信公ハ致仕の表をて後同八年十
三日糸融院^{イトニシ}文祿の時文は後政一終列入大長とい奉
に致仕しゆてととげくしに冷泉院文祿の時後政たる
しし刀くゆ道ハ信信公の致仕例よりうらりと也又致仕
とつあせ七十はぬておはすとやうしりるくおはすと也
ちひたる車ととも先祖の廟は乞とくあゆむ事あた
懸車^{ケルマ}れ鈴^{スズ}どもら也官と辞とやんともは致事に
あひくる人さうしりる海よりうらるともあひくる
致仕例花よりあり七十七下なる也 細 夢上父之致
仕表花より可也

せめてうらりと終つて女侍のやんしりるくおはすと也
して折角辞退り終つて也

ひとさうのさぬさうさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 そらねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 のおとれ一旗さうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 さうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ

細 三位中おちもさせさうさうのさのわぬ
 三條のさぬさうさうのさのわぬ

うのさぬさうさうのさのわぬ
 うのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ

ねらうのさぬさうさうのさのわぬ

ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 三位中おちも

ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ

ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ
 ねらうのさぬさうさうのさのわぬ

るるらんをともめしあひあてるゆゑはらうと 昇原氏のお

こころの行ふも也是は原氏のわこころの行ふを定むる

はるゆゑや一勅禁中るとありはらうと也

二書よはは徳経の私に記したる例あり也と抄は源のおこ

ころの行ふを 是は源氏のわこころを定む也 是は徳経

源氏のわこころの行ふを先守と記すは源氏のおこ

ころの行ふは行侍也は徳経又も大般若をよむに徳経

也ははるゆゑ也たつとありはらうと也但禁中とありに

てははらうとありはらうと也

めんふらうとありはらうと也はらうと也とありはらうと也

やうとありはらうと也わらうとありはらうと也

ちあはれひてありはらうと也 河 掩約古集の執字とありし

てはらうとありはらうと也とありはらうと也とありはらうと也

不取 聯句之由見 家範 初吉記 案 是くくの智恵

乃 清深とありはらうと也河海はわらうと也

はらうとありはらうと也 細 世よとありはらうと也

やうとありはらうと也 案 世よとありはらうと也

のあらうと也

くもあらうとありはらうと也

お 細 而白京も也 案 月角也

ある人ともありはらうと也

河 集 待集也

廣少と徳とのあをさきを行てまはらうと也

案 文をたへらうと也 案 庫も也

わらうとありはらうと也 細 めんふらうと也

ゆゑあらうとありはらうと也

人

つたうあふぬとあふしちたり成上人もゆへありぬ

ちうのふつともあふはさひく 案 中めも儒をる

なまそひのいよ 案 中めも儒をる

左のふらぬよりたあひるをけうりつり物とあふりて

よるいふたかたありもさふもてけまふたかたあ

のふしやもつとあひてけまふたかたあ

とあひて何左あふれんもさふもて書也

細 對座よさる座さる也 案 河二回

とけうちの給らり 案 とうもさふ給白原氏のあ

いとうれきけけらるる程ありつらうりし色ちうひ給

いんたらういんあふてけうりつらうりし色ちうひ給

ろありあふととてゆめ 細 原氏もさふようり

案 せん世の給らるるや儒志とてけうりつらうり

はあふたかたあふてけうりつらうりし色ちうひ給

けうりつらうりし色ちうひ給

けうりつらうりし色ちうひ給



四

河 苑頭并兼経春 塾次階座 蕃徽入夏用 案 大

我もさういひてかくるるはあふとあふり

中めもさういひてかくるるはあふとあふり

とてけうりつらうりし色ちうひ給

ともてあそひ給 并 ぬ梅志末長也 果 後まで致可ぬ也
四君とて此次第ありありありと人の思ひつゝをたれぬて
細 ぬ梅のおこし也

おほいといふつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝも
うきそはあそひのこころいふつゝもさういふつゝもさういふつゝも
このお孫なれも也

きうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきう
うき路 何さあ 障 長生業破るぬのこころいふつゝもさういふつゝも
この 未略 并 借る 業 障

きうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきうきう
細 源のこ海也

けうけのさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝも
うきも物もあそい 果 こころいふつゝもさういふつゝもさういふつゝも

いふつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝも
うかめつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝも
ある人トトにあす也

とてくからさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝも
よらめつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝも
あそい物とてさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝも
細 高 障 中

照の奇也 此白末の初也 果 是公前よりいふつゝもさういふつゝも
の末れ初也 子身あつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝも
てまの奇なり 路 時 宜 可 解 也

中将はうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
それとてあそひもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝも
光 高 砂の奇にあそひもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝも
あそい物とてさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝも

あそい物とてさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝも
あそい物とてさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝもさういふつゝも

あつらんやふきもさうやふきれうと云ふ也 中納言志
やうひよかかしくよめりやまゝに成すのよきもさひくもきたり
とよめりはむと物名乃初まらうひとよめればけさう
ひこそかたつるとよめ候ふとよめとよめりやまゝに源
氏のまのちおれし花もよきも砂の奇きさうもきたり
とよめ細きとよめ砂河也源の序うららハ奇きさう
きたり花もよきもきたりひも花也也花はさう花も
の蕃面^{ニヤウラヒ}蔽ふとらんくもめり也 乃と朝むもきたり也
ハ古し物名よらうひと我ハ奇きさうひもさうらう也
よめりさうらうひとよめり成へし源の奇きもあつらん
第 中納言のまのちやそれとよめりさうれうと云ふ也さう砂河
とよめり花もよきもさうらうひと花はあつらん物名も
さうらうれのとあつらんよらうらう源氏と花もよきとて

よめりやそれとよめりさうらうひとよめりさうれ
のさうらうもさうらうらうらうらうらうの初めは
さうらうさうらう縁あつらんめばさうらうらうらうと朝ひ
らきたり花のやうに源氏乃花白くもらんさうらう也
源氏とさうらう源 果源氏と花もよきとよめりさうらう
とよめり花もよき也
時あつらん花もよき花は夏秋物とよめればさうらうに自は花は
花と源氏乃花もよきとよめり花也 細源も花もよきと
花もよきとよめり花也 乃源氏乃花もよきとよめり花也
又本意の思ふらう 果源氏乃花もよきとよめり花もよき
てやハ源氏乃花もよきとよめり花もよきとよめり花もよき
とよめり花もよきとよめり花もよきとよめり花もよきと
あつらん物名もよきとよめり花もよきとよめり花もよきと

さうしめいあまいさうあまはけいしあまいさうしめい

何そとて遊戯ある也 ^并 三位中納の原氏

は頭と懸は志ある事いふも神也 ^細 どのかたあは路

也 黒原氏の系流ありあまいさうあまいさうあまい

さうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

さうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

ねと教いひさうしめいさうしめいさうしめい

^細 記志の書也人々の考あはれさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

はさうしめいさうしめいさうしめいさうしめい

伏せふもとるん人なり。そなたの三伏せの冷泉院ありてま
しまをともと源氏をわらふまう。まはるる路りんを
密通の子にされん。まはるる成王はあはるる路りんを
成王のあふるる路りんとともとるる路りんとともと
とれり。辨記志親也。まはるる冷泉院成王より
つと冷泉院を源氏密通のつとあはるる路りんとともと
まはるる路りんを成王に今よとひ。たうやと成王
ハ成王のまはるる路りんとともとるる路りんとともと
て不叶やそなた今よハ成王のつとあはるる路りんとともと
又冷泉院のつとあはるる路りんとともとるる路りんとともと
のやうに成路し。まはるる路りんとともとるる路りんとともと
後の路りんとともとるる路りんとともとるる路りんとともと
ハ

周室の王位とほりてあはるる路りんとともとるる路りんとともと
位よつとるる路りんとともとるる路りんとともとるる路りんとともと
脱履あはるる路りんとともとるる路りんとともとるる路りんとともと
にはあはるる路りんとともとるる路りんとともとるる路りんとともと
成王はあはるる路りんとともとるる路りんとともとるる路りんとともと
とれり。辨記志親也。まはるる冷泉院成王より
つと冷泉院を源氏密通のつとあはるる路りんとともと
まはるる路りんを成王に今よとひ。たうやと成王
ハ成王のまはるる路りんとともとるる路りんとともと
て不叶やそなた今よハ成王のつとあはるる路りんとともと
又冷泉院のつとあはるる路りんとともとるる路りんとともと
のやうに成路し。まはるる路りんとともとるる路りんとともと
後の路りんとともとるる路りんとともとるる路りんとともと
ハ

辨記志親也 同


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~


よのたれれとあてはる我をいふも一なるはまゝいふもあはれ
ふもとらるるひやうとあはれなりしとらるるしとらるる

細

またあてはるひやうとあはれなりしとらるるしとらるる

茶

世のまめやんは心の清たれぬまたあてはるる毎邊り

あはれと神をいふも一なる事也

時のつらきせはちれ下とあはれなりしとらるるしとらるる

たねろはらとあはれなりしとらるるしとらるるしとらるる

右族事也

但是の有職事也 茶 又下とあはれなりし

終るるにたれとほはらうらうらとあはれなりしとらるる

しとらるるしとらるるしとらるるしとらるるしとらるる

宮にいとあはれなりしとらるるしとらるるしとらるる

終るるにたれとほはらうらうらとあはれなりしとらるる

いともあはれなりしとらるるしとらるるしとらるる

かたもあはれなりしとらるるしとらるるしとらるる
のおもいもあはれなりしとらるるしとらるるしとらるる
もあはれなりしとらるるしとらるるしとらるる
ほはらものあはれなりしとらるるしとらるるしとらるる
いのもあはれなりしとらるるしとらるるしとらるる
てともあはれなりしとらるるしとらるるしとらるる
きとらるるしとらるるしとらるるしとらるる
あはれなりしとらるるしとらるるしとらるるしとらるる
又けあはれなりしとらるるしとらるるしとらるるしとらるる
あはれなりしとらるるしとらるるしとらるるしとらるる
ほはらものあはれなりしとらるるしとらるるしとらるる

家 せよの人かゝむの志とわしを思ひん也
 志あそりららるるをいふ事と云ふはさしあはれ
 兼 昔の心と今人の心 細 同 家 昔の心と今人の心
 めてははれと云ふは心行のひらひらと云ふ事
 孫の心也

舞の心と云ふは心行のひらひらと云ふ事
 孫の心也
 孫の心と云ふは心行のひらひらと云ふ事
 孫の心也

おひもものほろろと云ふは心行のひらひらと云ふ事
 孫の心也
 おひもものほろろと云ふは心行のひらひらと云ふ事
 孫の心也

孫の心と云ふは心行のひらひらと云ふ事
 孫の心也

孫の心と云ふは心行のひらひらと云ふ事
 孫の心也

孫の心と云ふは心行のひらひらと云ふ事
 孫の心也

孫の心と云ふは心行のひらひらと云ふ事
 孫の心也





